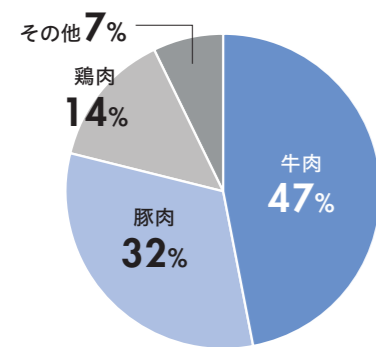


食肉バリューチェーンの創造と拡大に向け
主体的に変化を起こし、
新たな未来を切り開きます。

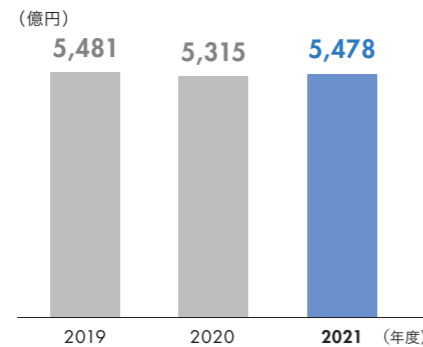


取締役常務執行役員
食肉事業本部長
若木 孝優

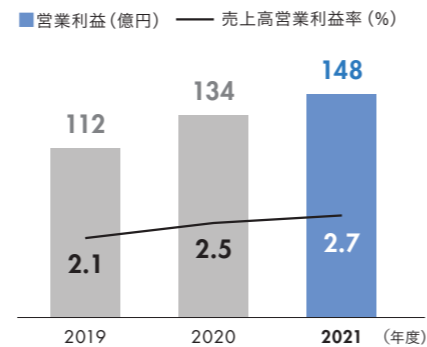
●畜種別売上構成比



●売上高の推移



●営業利益・売上高営業利益率の推移



※「収益認識に関する会計基準」等を2021年度連結会計年度の期首から適用しています。

市場環境への認識

人口問題や気候変動に加え、近年の新型コロナウイルス流行、地政学リスクの高まりなど、世界の食品産業を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。特に食肉業界では、飼料原料や燃料の価格高騰、世界的なコンテナ物流の混乱、慢性的な人手不足などコスト増加要因の克服が課題となっています。また、家畜生産における温室効果ガス削減、アニ

マルウェルフェア改善など、サステナビリティへの取り組みも急務である一方、人類の健康を支えるたんぱく源としての食肉の重要性はますます高まっています。日本および海外市場における当社グループの食肉生産・販売基盤をさらに拡大・改善し、食肉事業を通じた経済価値と社会・環境価値の最大化を実現することが、当部門の使命と考えています。

当社グループの強み

- 全国に展開する販売網
- 自社輸入を主体とする海外調達力
- 幅広い商品群と商品開発力
- 国内生産・未加熱加工事業
- 海外事業の成長 (ANZCO など)

機会

- 世界的な動物たんぱく需要の拡大
- 新たなたんぱく源 (代替肉) の需要拡大
- ライフスタイルの変化による付加価値商品の需要拡大
- DXやAIなど急速な技術革新を活用した効率化とコスト削減

リスク

- 気候変動による生産事業への影響
- 円滑な国際取引への阻害要因の増加
- 飼料原料・資材・燃料価格高騰
- 家畜伝染病リスクの増大
- 人手不足による人件費・物流費上昇

2021年度の実績と課題

変化やリスクに強い事業構造へ

国内事業では、内食需要の高まりが一段落する中、輸入鶏肉の業務用商品や国産鶏肉の量販向け商品が数量を伸ばしたに加え、輸入牛肉と国産牛肉の相場高が続いたこともあり、売上高は増加しました。一方、利益については、相場高による調達価格の上昇や海上コンテナ輸送の混乱が続いた影響などにより減益となりました。海外事業では、ニュージーランド牛羊肉事業を行うANZCOでの内部改善効果が拡大したに加え、北米など主要販売先での市場価格上昇により、売上高・利益とも大幅に増加しました。食肉部門全体では、売上高5,478億円、営業利益は148億円で過去最高益となりました。

2021年度の主な取り組みとして、十和田市などより十和田食肉センターの資産を継承し、IHミートパッカー十和田ミートプラントとして稼働したことや、IHミートソリューション石狩パックスセンターを稼働したことが挙げられます。また、食肉部門における組織統合として、伊藤ハムと米久の調達部門と戦略部門を統合し、食肉事業本部を新設しました。今後、食肉事業の基幹システムを一本化するプロジェクト (食肉ミライキバン) にて、2023年初頭より移行を開始する予定です。また物流合理化を目指し、在庫保管場所や輸送手段・ルート最適化を行い、物流費低減と温室効果ガス削減を推進します。

2022年度の戦略と取り組み

主体的に変化を起こし、 新たな未来を切り開く

生産事業の拡大・最適化を目指して、国内外で大型設備投資 (十和田牛肉処理施設新設など) を実行し、生産・処理マージン拡大と自社製品としての高付加価値化を進めます。国内事業では、全国展開の販売網を通じた提案力を強化し、ブランドミートや未加熱加工品の販売拡大による営業利益率向上を図ります。海外事業では、ANZCOの輸出競争力を強化し、国産和牛・黒豚輸出事業とも連携してグローバル市場での販売マージンを拡大します。また、食肉ミライキバンをはじめとするDX推進、物流合理化など中長期でのコスト削減施策を実行します。

サステナビリティへの取り組みを強化し、経済価値と社会・環境価値の同時実現を図ります。具体的には、全国肉牛事業協同組合と東京農業大学が共同実施する「肉用牛生産における温室効果ガス (GHG) 削減可視化システム構築事業」に、当社グループの和牛協力農場を通じて協力し、メタン発生抑制効果がある天然素材由来飼料を給餌する実証実験を進めます。また、ANZCOが展開するヘルスクエア事業では、新たにMoregate社を買収したことで主力製品の合計シェアは世界トップクラスとなりました。この製品はワクチン製造・再生医療・臨床診断などに用いられ、今後も高い市場成長が見込まれます。

FOCUS!

「中期経営計画2023」の目標達成に向けた4つの取り組み

- **重点テーマ① 経営基盤の強化**
「食肉ミライキバンプロジェクト」の完遂や物流合理化などにより、統合シナジーを最大化します。
- **重点テーマ② 収益基盤の強化**
生産・加工事業の拡大とコスト競争力向上、販売事業の末端到達力強化を並行して推進します。
- **重点テーマ③ 新規事業・市場への取り組み**
ヘルスクエア事業、エキス事業、代替肉プロジェクトなど成長性が高い領域への投資を拡大します。
- **重点テーマ④ サステナビリティへの取り組み**
マテリアリティに則した対応を強化し、特に食肉事業に関わりの深い温室効果ガス削減、アニマルウェルフェア改善などに注力するとともに、調達ポリシーの実効性を高めます。



ANZCOが展開するヘルスクエア事業による動物由来血液製剤